

3. 任意情報抽出ツール

1)、2)で作成したデータをツールを用いて、データベースに投入することにより、SymfoWARE Navigator Serverから検索することが可能となった。

任意情報抽出ツールは、NavialphaとSymfoWARE Navigatorを用いてメニュー形式で各種のデータを抽出する。

4. 今後の展開

今後の展開としては、今年度の実績を元に、

1) 疾病別情報抽出システムを汎用化するための検索エンジン

2) 疾病別情報抽出システムと関連した情報を、各データベースから検索するシステム

を展開を計画している。

1. 退院患者情報. RNE

ファイル名 : 退院患者情報.rne
バージョン : V4.0L20 版

集計方法 : 明細表

***** オプション情報 *****

表側のオプション

実績データがない行も表示する : No
全ての行にカテゴリを表示する : No
中計行 : Yes
総計行 : Yes

下

明細表作成時に合計行の表示指定を有効にする : 下

表頭のオプション

実績データがない列も表示する : No
全ての列にカテゴリを表示する : No
中計列 : Yes
総計列 : Yes

右

ABCのオプション

微細な構成比 : OFF
構成比の実績ないデータを NULL としない

日付表示

自動
省略形で表示 : No
和暦で表示する : No

時間テンプレート

単期のカテゴリ : 実際の年月日で表示
累積期間のカテゴリ : 実際の年月日で表示

性能オプション

テーブルジョインの処理 : 集計後に SymfoWARE Navigator で行う
階層関係のある管理ポイントの処理方法 : 階層関係のチェックを行う

表題

タイトル :

注釈

注釈 :

伝票コードオーダー種別: C 移動伝票コード連番: 002

その他

NULL 代替え : -
未区分 : 集計しない

総ページ数 : 1

○データ項目

移動コード
移動伝票名称
病棟
病棟名診療科名
患者 ID
移動実施開始日
移動時刻移動伝票コードオーダー種別

2. 稼動額. RNE

機能：医事稼動額ファイルより、患者IDおよび期間を指定して稼動額情報を抽出する

ファイル名 : 国立大阪\長期診療支援サポート\カタログ類\稼動額.RNE
バージョン : V4.0L20版

集計方法 : 明細表

***** オプション情報 *****

表側のオプション

実績データがない行も表示する : No
全ての行にカテゴリを表示する : No
中計行 : No
総計行 : Yes

下

明細表作成時に合計行の表示指定を有効にする : 下

表頭のオプション

実績データがない列も表示する : No
全ての列にカテゴリを表示する : No
中計列 : No
総計列 : Yes

右

ABCのオプション

微細な構成比 : OFF
構成比の実績ないデータをNULLとしない

日付表示

自動
省略形で表示 : No
和暦で表示する : No

時間テンプレート

単期のカテゴリ : 実際の年月日で表示
累積期間のカテゴリ : 実際の年月日で表示

性能オプション

テーブルジョインの処理 : 集計後に SymfoWARE Navigator で行う
階層関係のある管理ポイントの処理方法 : 階層関係のチェックを行う

表題

タイトル :

注釈

注釈 :

検索条件

データ年月患者ID:
データ年月: 200005 --> <-- 200006

その他

NULL代替え : -
未区分 : 集計しない

○データ項目

データ年月
入外区分
患者ID
診療科コード
診療区分
主保険法別番号
従保険1法別番号
従保険2法別番号

主保険継続区分
主保険本人家族区分
住所コード
性別
生年月日
年齢
部屋番号
病棟コード
部屋区分
重症者区分
看護区分
病棟区分
室料差額
ドクターコード
診療日
曜日区分
時間外区分
点数計
コード計
数量計
伝票種別
依頼元コード
保険負担率 (%)
公費負担率 (%)
患者自己負担率 (%)
自保区分
個別区分
手技点数
薬剤点数
材料点数
合計回数
点数単価
算定なしフラグ
レセプト科コード
レセプト病棟コード
点数マスタ分類コード1
点数マスタ分類コード2
点数金額区分
手技金額
薬剤金額
材料金額
合計金額患者ID

3. 退院患者情報(サマリ).RNE

機能：退院サマリ情報より、患者ごとのサマリを抽出する

ファイル名 : 退院患者情報(サマリ).RNE
バージョン : V4.0L20 版

集計方法 : 集計表

***** オプション情報 *****

表側のオプション

実績データがない行も表示する : No
全ての行にカテゴリを表示する : No
中計行 : Yes
総計行 : Yes

下

明細表作成時に合計行の表示指定を有効にする : 下

表頭のオプション

実績データがない列も表示する : No
全ての列にカテゴリを表示する : No
中計列 : No
総計列 : Yes

右

ABCのオプション

微細な構成比 : OFF
構成比の実績ないデータを NULL としない

日付表示

自動
省略形で表示 : No
和暦で表示する : No

時間テンプレート

単期のカテゴリ : 実際の年月日で表示
累積期間のカテゴリ : 実際の年月日で表示

性能オプション

テーブルジョインの処理 : 集計後に SymfoWARE Navigator で行う
階層関係のある管理ポイントの処理方法 : 階層関係のチェックを行う

表題

タイトル :

注釈

注釈 :

その他

NULL 代替え : -
未区分 : 集計しない

総ページ数 : 1

○データ項目

退院患者件数月度

4. 退院患者情報(患者結合).RNE

機能：退院サマリより、疾病情報ほかの退院時サマリ情報を抽出する

ファイル名 : 退院患者情報(患者結合).RNE
バージョン : V4.0L20版

集計方法 : 明細表

***** オプション情報 *****

表側のオプション

実績データがない行も表示する : No
全ての行にカテゴリを表示する : No
中計行 : No
総計行 : Yes
下

明細表作成時に合計行の表示指定を有効にする : 下

表頭のオプション

実績データがない列も表示する : No
全ての列にカテゴリを表示する : No
中計列 : No
総計列 : Yes
右

ABCのオプション

微細な構成比 : OFF
構成比の実績ないデータをNULLとしない

日付表示

自動
省略形で表示 : No
和暦で表示する : No

時間テンプレート

単期のカテゴリ : 実際の年月日で表示
累積期間のカテゴリ : 実際の年月日で表示

性能オプション

テーブルジョインの処理 : 集計後に SymfoWARE Navigator で行う
階層関係のある管理ポイントの処理方法 : 階層関係のチェックを行う

表題

タイトル :

注釈

注釈 :

その他

NULL代替え : -
未区分 : 集計しない

総ページ数 : 1

○データ項目

患者ID
患者カナ
患者名
性別
入院期間開始日
入院期間終了日
通算入院日数
SEQ番号
病棟コード
病棟名

主治医ID
主治医名
受持医ID
受持医名
共観科
共観科名
入院目的
職業
生年月日
郵便番号1
郵便番号2
自宅住所詳細(コード)
自宅住所詳細
自宅電話番号
緊急連絡先
会社住所
会社電話番号
会社内線
優待区分
禁忌
転帰区分1
転帰区分2
剖検有無
紹介先
診断名コード1
診断名コード2
診断名コード3
診断名コード4
診断名疑いフラグ
診断名
入院時病名コード1
入院時病名コード2
入院時病名コード3
入院時病名コード4
入院時病名疑いフラグ
入院時病名
退院時病名コード1
退院時病名コード2
退院時病名コード3
退院時病名コード4
退院時病名疑いフラグ
退院時病名
DRG病名コード1
DRG病名コード2
DRG病名コード3
DRG病名コード4
DRG病名疑いフラグ
DRG病名
合併症(1)コード1
合併症(1)コード2
合併症(1)コード3
合併症(1)コード4
合併症(1)疑いフラグ
合併症(1)
合併症(2)コード1
合併症(2)コード2
合併症(2)コード3
合併症(2)コード4
合併症(2)疑いフラグ
合併症(2)
合併症(3)コード1
合併症(3)コード2
合併症(3)コード3

合併症（3）コード4
合併症（3）疑いフラグ
合併症（3）
術中合併症コード1
術中合併症コード2
術中合併症コード3
術中合併症コード4
術中合併症疑いフラグ
術中合併症
術後合併症コード1
術後合併症コード2
術後合併症コード3
術後合併症コード4
術後合併症疑いフラグ
術後合併症
併存症（1）コード1
併存症（1）コード2
併存症（1）コード3
併存症（1）コード4
併存症（1）疑いフラグ
併存症（1）
併存症（2）コード1
併存症（2）コード2
併存症（2）コード3
併存症（2）コード4
併存症（2）疑いフラグ
併存症（2）
併存症（3）コード1
併存症（3）コード2
併存症（3）コード3
併存症（3）コード4
併存症（3）疑いフラグ
併存症（3）
併存症（4）コード1
併存症（4）コード2
併存症（4）コード3
併存症（4）コード4
併存症（4）疑いフラグ
併存症（4）
入院中他科コード1
入院中他科名1
担当医 ID1
担当医名1
入院中他科コード2
入院中他科名2
担当医 ID2
担当医名2
入院中他科コード3
入院中他科名3
担当医 ID3
担当医名3
主訴
既往歴
家族歴
現病歴
入院時現症
検査所見まとめ
入院後の経過
退院時処方
考察
指導内容
退院後のフォロー
内視鏡 NO

内視鏡所見
X線検査NO
X線検査所見
血管造影NO
血管造影所見
CTNO
CT所見
MRINO
MRI所見
EOGNO
EOG所見
超音波検査NO
超音波検査所見
バイオプシーNO
バイオプシー所見
その他検査所見
放射線治療
化学療法
リハビリ
術前経過
術後経過
同種血輸血
不規則抗体
自己血輸血区分
貯血区分
貯血内容
術中術後回収式
術中術後回収式内容
希釈式
希釈式内容
手術日1
根治・姑息区分1
術式コード11-1
術式コード11-2
術式コード11-3
術式コード11-4
術式11
術式コード12-1
術式コード12-2
術式コード12-3
術式コード12-4
術式12
術式コード13-1
術式コード13-2
術式コード13-3
術式コード13-4
術式コード13
手術所見1
組織診断1
麻酔法1
病理番号1
スライド有無1
手術日2
根治・姑息区分2
術式コード21-1
術式コード21-2
術式コード21-3
術式コード21-4
術式21
術式コード22-1
術式コード22-2
術式コード22-3
術式コード22-4

術式 2 2
術式コード 2 3 - 1
術式コード 2 3 - 2
術式コード 2 3 - 3
術式コード 2 3 - 4
術式 2 3
手術所見 2
組織診断 2
麻酔法 2
病理番号 2
スライド有無 2
手術日 3
根治・姑息区分 3
術式コード 3 1 - 1
術式コード 3 1 - 2
術式コード 3 1 - 3
術式コード 3 1 - 4
術式 3 1
術式コード 3 2 - 1
術式コード 3 2 - 2
術式コード 3 2 - 3
術式コード 3 2 - 4
術式 3 2
術式コード 3 3 - 1
術式コード 3 3 - 2
術式コード 3 3 - 3
術式コード 3 3 - 4
術式 3 3
手術所見 3
組織診断 3
麻酔法 3
病理番号 3
スライド有無 3
手術日 4
根治・姑息 4
術式コード 4 1 - 1
術式コード 4 1 - 2
術式コード 4 1 - 3
術式コード 4 1 - 4
術式 4 1
術式コード 4 2 - 1
術式コード 4 2 - 2
術式コード 4 2 - 3
術式コード 4 2 - 4
術式 4 2
術式コード 4 3 - 1
術式コード 4 3 - 2
術式コード 4 3 - 3
術式コード 4 3 - 4
術式 4 3
手術所見 4
組織診断 4
麻酔法 4
病理番号 4
スライド有無 4
手術日 5
根治・姑息区分 5
術式コード 5 1 - 1
術式コード 5 1 - 2
術式コード 5 1 - 3
術式コード 5 1 - 4
術式 5 1
術式コード 5 2 - 1

術式コード52-2
術式コード52-3
術式コード52-4
術式52
術式コード53-1
術式コード53-2
術式コード53-3
術式コード53-4
術式53
手術所見5
組織診断5
麻酔法5
病理番号5
スライド有無5
手術日6
根治・姑息区分6
術式コード61-1
術式コード61-2
術式コード61-3
術式コード61-4
術式61
術式コード62-1
術式コード62-2
術式コード62-3
術式コード62-4
術式62
術式コード63-1
術式コード63-2
術式コード63-3
術式コード63-4
術式63
手術所見6
組織診断6
麻酔法6
病理番号6
スライド有無6
手術日7
根治・姑息7
術式コード71-1
術式コード71-2
術式コード71-3
術式コード71-4
術式71
術式コード72-1
術式コード72-2
術式コード72-3
術式コード72-4
術式72
術式コード73-1
術式コード73-2
術式コード73-3
術式コード73-4
術式73
手術所見7
組織診断7
麻酔法7
病理番号7
スライド有無7
画像フラグ
作成日
作成利用者
作成依頼医
更新日

更新利用者
更新依頼医入院科コード
入院科名
承認日
承認者ID
承認者名
月度:

5. 特定患者稼動額_金額統計. RNE

機能：稼動額情報より、入院中特定患者の金額を抽出する

ファイル名 : 国立大阪\長期診療支援サポート\カタログ類\特定患者稼動額_金額統計.RNE
バージョン : V4.0L20 版

集計方法 : 集計表

***** オプション情報 *****

表側のオプション

実績データがない行も表示する : No
全ての行にカテゴリを表示する : No
中計行 : No
総計行 : Yes

下

明細表作成時に合計行の表示指定を有効にする : 下

表頭のオプション

実績データがない列も表示する : No
全ての列にカテゴリを表示する : No
中計列 : No
総計列 : Yes

右

ABCのオプション

微細な構成比 : OFF
構成比の実績ないデータを NULL としない

日付表示

自動

省略形で表示 : No
和暦で表示する : No

時間テンプレート

単期のカテゴリ : 実際の年月日で表示
累積期間のカテゴリ : 実際の年月日で表示

性能オプション

テーブルジョインの処理 : 集計後に SymfoWARE Navigator で行う
階層関係のある管理ポイントの処理方法 : 階層関係のチェックを行う

表題

タイトル :

注釈

注釈 :

その他

NULL 代替え : -
未区分 : 集計しない

総ページ数 : 1

○データ項目

手技金額
薬剤金額
材料金額
合計金額入外区分
診療科コード
データ年月
診療日
病棟コード
診療区分
患者ID

「疾病別情報検索エンジン」 検索システム

(2) 稼動額 RNE

診療科別に、稼動額情報を表示します。

<問い合わせ概要>

表の種類：集計表

表頭：科コード

表側：診療区分

データ：手技金額 [*1]、薬剤金額 [*1]、材料金額 [*1]、総金額 [*1]、

注) 対象情報 (テーブル) は、以下のとおりです。

[*1]：稼動額情報

条件：なし

科コード	01				03			
診療区分	合計手技金	合計薬剤金	合計材料金	総金額	合計手技金	合計薬剤金	合計材料金	総金額
00	16,840	0	0	16,840	9,540	0	0	9,540
01	4,000	0	0	4,000	3,000	0	0	3,000
02	800	0	0	800				
04	1,120	0	0	1,120	1,820	0	0	1,820
06	150	0	0	150	2,305	0	0	2,305
07	111,000	0	0	111,000	24,000	0	0	24,000
08								
09								
11	207,550	0	0	207,550	74,000	0	0	74,000
12	57,270	0	0	57,270	12,478	0	0	12,478
13	24,823	0	0	24,823	10,763	0	0	10,763
14	46,120	0	0	46,120	2,900	0	0	2,900
16								
21	0	187,490	0	187,490	27,840	100,052	0	127,892
22	0	910	0	910	0	1,002	0	1,002
23	0	6,380	0	6,380	0	7,730	0	7,730
24	8,330	0	0	8,330	4,690	0	0	4,690
25	40,460	0	0	40,460	9,955	0	0	9,955
26	20	0	0	20	10	0	0	10
27	5,240	0	0	5,240	3,480	0	0	3,480
28								
31	800	1,630	0	2,430	320	450	0	770

5) 特定患者稼働額 金額統計.RNE
 特定個人の稼働額状況を表示します。

<問い合わせ概要>

表の種類 : 集計表

表頭 : なし

表側 : ・ 月度

・ 日

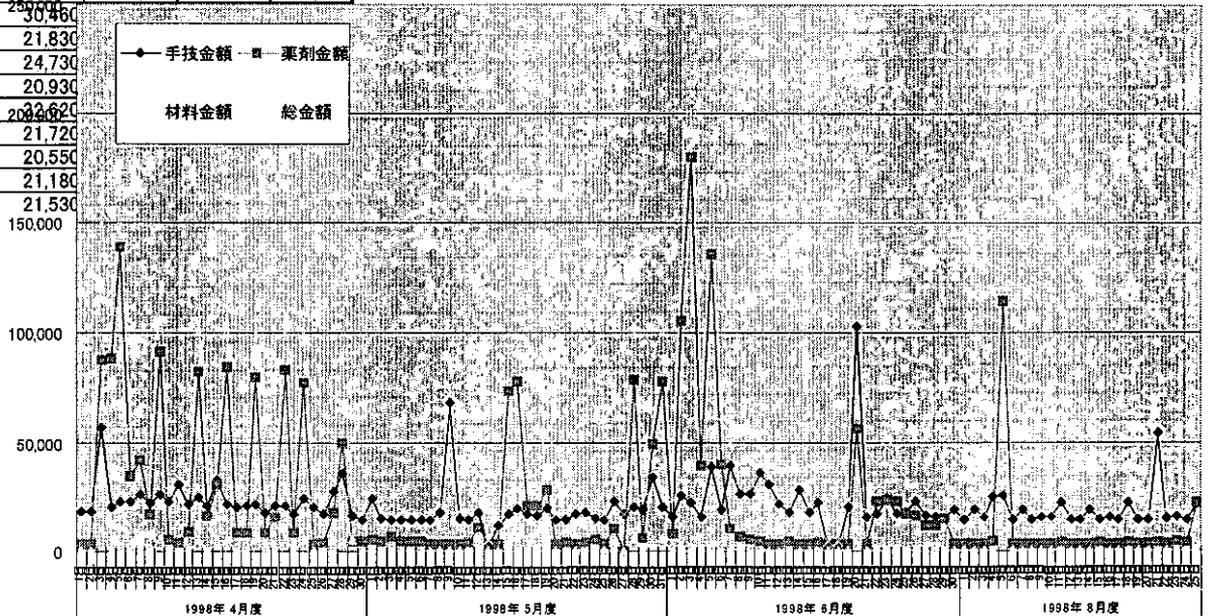
データ : 手技金額 [*1]、薬剤金額 [*1]、材料金額 [*1]、総金額 [*1]、

注) 対象情報 (テーブル) は、以下のとおりです。

[*1] : 稼働額情報

条件 : なし

月度	日	手技金額	薬剤金額	材料金額	総金額
1998年4	1日	18,620	3,070	0	21,690
	2日	18,620	3,070	0	21,690
	3日	56,980	87,540	10,000	154,520
	4日	20,570	88,660	0	109,230
	5日	22,980	138,580	0	161,560
	6日	22,780	34,400	0	57,180
	7日	26,030	41,870	0	67,900
	8日	22,220	16,880	0	39,100
	9日	25,990	91,660	5,020	122,670
	10日	23,000	5,400	0	28,400
	11日	29,940	30,460	0	60,400
	12日	21,830	0	0	21,830
	13日	24,730	0	0	24,730
	14日	20,930	0	0	20,930
	15日	20,620	0	0	20,620
	16日	21,720	0	0	21,720
	17日	20,550	0	0	20,550
	18日	21,180	0	0	21,180
	19日	21,530	0	0	21,530



6) 病名別稼働額明細.RNE

病名ごとの稼働額状況を表示します。

<問い合わせ概要>

表の種類：集計表

表頭：診療大区分、診療区分

表側：
・病名コード
・正式病名
・患者ID

データ：総金額 [*1]

注) 対象情報 (テーブル) は、以下のとおりです。

[*1]：稼働額病名情報

条件：なし

診療大区分			00自費	11初診	14在宅	16在宅診	20投薬			
診療区分			自費	初診料	指導料	在宅診療	内服	頓服	外用	調剤料
病名コード	正式病名	患者ID	総金額	総金額	総金額	総金額	総金額	総金額	総金額	総金額
991-000050	急性胃腸炎	0009040450	1,998				24,700	400		900
991-000080	亜急性硬膜下出血	0009040316					6,580	210	2,320	3,710
991-000250	再発性急性骨髄性白血病	0009000519			35,500		415,850	3,200	17,510	7,250
	再発性発作性気管支喘息	0009040370			7,500		21,600	40	17,020	1,500
992-000550	右内頸動脈閉塞症	0009040174	10,000				9,980	620	10,580	3,450
992-000560	左前交通動脈瘤	0000000004					6,020	300		420
	左内頸動脈閉塞症	0009040557				12,500	49,570	300	3,350	1,740
B181-00100	B型肝炎(慢性)	0009040147	5,000		7,000				170	1,620
		0009040414					930		80	180
B182-00300	C型肝炎	0009040129			8,300		32,850		5,020	2,340
C169-00700	胃癌	0000000013	9,000		10,000		20		2,850	360
		0009000118	15,000				6,230		4,280	4,080
C220-00300	肝癌	0009040389	5,000		24,300		11,750	530	2,870	1,900
C220-00400	肝細胞癌	0000000001					143,740	1,060	3,700	3,540
		0009040138			9,500		8,390	100	1,050	1,440
		0009040209			8,300		110,640		9,460	2,040
		0009040281	3,000				11,760	180	540	480
		0009040405	17,000				16,050	2,550	6,180	3,180
		0009040726			10,500		7,220	2,000	2,320	890
C349-00700	肺癌の疑い	0009040272	10,000		3,400		31,830	550	500	1,520
C719-04200	脳胚細胞腫瘍	0009040101	1,998				3,500			1,680
C795-01100	転移性頭蓋骨腫瘍	0009040502			5,000		23,270	3,510	8,040	3,120
C859-01500	非ホジキンリンパ腫	0009010054	5,000		21,000		199,380	200	9,900	3,960

国立大阪病院における病名マスタの形成について

国立大阪病院

臨床研究部長

楠岡英雄

医事課統計病歴係主任 佐藤祐子

1. 緒言

国立大阪病院においては、平成12年4月からの病院情報システムの更新に伴い、従来医事システムにおいて取り扱っていた病名を、オーダリング上で取り扱うこととした。これは、これまでの取り扱いでは以下のような問題点が指摘されていたためである。

- 1) これまでのシステムでは、病名の取り扱いは主として診療報酬請求を中心としていたため、任意の病名を入力することが可能であり、同一の病態に複数の病名が存在していた。
- 2) その結果、医事課データより退院患者のデータベースを構成し、疾患毎の動向などの解析を行おうとした際に、病名をキーとして検索することがはなはだ困難であった。
- 3) 複数科に受診する患者について、他科での病名を参照することが困難であった。但し、これは、当院の外来患者カルテが1患者1ファイルとなっていないことにも一部起因している。
- 4) 退院時サマリの一部もデータベース化されつつはあったが、病院全体での病名の統一性がないことより、カルテの病名とサマリの病名が解乖することがあった。さらに、各科が独自の患者データベースを作成することとなり、データ処理の効率化・統一化が必要と成りつつあった。

上記のような問題を解決するために、まず病名マスタを形成し、院内で使用するあらゆるシステムにおいて、病名は必ずこのマスタから採用することとした。すなわち、病名はオーダリング・システムを用いて医師が入力すること、また、この病名を医事課システムを始めとする他の病院情報システムでも利用することにより、患者に賦与される病名を病院全体で一致せしめることを目標とした。そこで、当院における病名マスタを新たに作成することとなった。

2. 病名マスタの形成過程

病名マスタは、財団法人医療情報システム開発センター（MEDIS-DC）が平成10年4月より提供を行っている「標準病名マスター（ICD10・レセ電算システム対応）Ver.1.0」を基礎とした。

しかし、この標準病名マスタには、同一病態を異なった病名で表現する「病名の重複」や、当院での診療上必要とするにもかかわらず記載されていない「病名の不足」が存在することが明らかとなっていた。そこで、以下の過程により、当院での病名マスタの形成を平成11年10月より行った。作業は、診療各科より1名の担当者を選出し、担当者間の協議によって行った。第一次作業（平成11年11月～平成12年3月）は各科において病名の削除・追加を行い、暫定案を各科で検討し、マスタを作成した。第二次作業（平成12年3月～平成12年5月）は医事課統計病歴係と導入業者の富士通が中心となって、病名コードの決定、医事課に登録された病名から病院情報システムの病名システムへの移行作業などを行った。

なお、第一次作業においては、以下の作業指針を各科に示し、これに基づいて病名の削除・追加を行った。

○標準病名マスタからの病名選択方針

1. 明らかに同一の病態を示す複数の病名があるときは、その内の1つだけを残す。

【例】冠状動脈閉塞、冠状動脈血栓塞栓症、冠状動脈血栓症

2. 重複があるが、部位や進行度の違いを表現しており、今後の診療上必要なものについては残す。この場合、部位と病期など、重複が残る可能性もあるが、必要ならば残してよい。(大分類-中分類-小分類のような階層構造を考慮する)

【例】急性心筋梗塞-急性前壁心筋梗塞

急性下壁心筋梗塞

3. 専門領域では必要性を認めないが、一般領域では必要と考えられる症候名などは、重複を省いて残す。(専門的には症候をあらわすものは病名としては取り扱わないが、一般病名として専門科以外の科で病名をつけざるをえない場合もあり、診療報酬請求を考慮すると必要である。)

【例】EKG異常、ECG異常、心電図異常 → 「心電図異常」を残す

4. 人名のついた病名はカタカナ表記とする。著明な略語についてはアルファベット表記を残す。

【例】バセドウ病

P T C A

5. 判断に迷ったものは残すが、判断がつかなかったことをメモとして付ける。

6. 診療上必要と考えられる病名で抜けているものについては、追加する。

3. 当院の病名マスタの特徴

上記の指針に基づき、病名の追加・削除を行った結果の一例を表1に示す。

標準病名マスタでは、専門的医療において病名として不十分なものについては、より詳細な分類に基づく病名を加えると共に、その疾患を専門としない診療科においても利用できるよう、疾患全体を包括した病名も残した。

また、病名マスタにおいて病名にコードを賦与するにあたり、標準病名マスタの ICD-10 準拠コードを基本とした(表1)。標準病名マスタの病名コードは先頭部分が ICD10 コードより成り、これに枝番号を賦与した8桁で構成されている。当院の病名コードは全10桁とし、標準病名マスタから採用した病名については末尾に「00」を加えた。また、病名の構造を保つために、標準病名マスタの病名を細分化した場合は、標準病名マスタのコードの末尾に「01」「02」等を加え、当院にて新たに追加した病名には ICD-10 コードに枝番号として「99901」等を使用することとした。これらの操作により、その病名の由来がコードから判別できるようにした。

4. 病名マスタのメンテナンス

病名マスタは随時見直しを行うと共に、診療各科からの要望をもとに、メンテナンスを行っている。この作業は、医事課統計病歴係で担当している。診療上、新たな病名の追加の必要が生じた場合は、統計病歴係に病名追加依頼を提出し、これを病院情報システム運用委員会内の病名小委員会にて検討の上、採否を決定している。一方、削除の場合は、マスタから削除するが、その履歴は残す事としている。また、新規病名の病名コードは、統計病歴係で決定している。

病名小委員会は7名から構成されており、現在、構成員は、内科部長、内科医長(病院情報システム運用委員会委員長)、臨床研究部長(病院情報システム管理者)、外科部長、産科医長(病院情報システム管理者代理)、整形外科医師、統計病歴係主任の7名である。

5. 現在の病名マスタの問題点

現在、病名としてはほぼ十分なものがマスタに登録されているが、シソーラスを欠くため、病名検索に困難が見られる。この解決法の一つとして、頻用病名を登録し、頻用されるがマスタにない病名は、頻用病名にマスタ上の病名をリンクさせている。その際、頻用病名のり

ストから選んだ病名と異なった病名が登録されるため、若干の混乱がある。

また、複合した病名については、2つ以上の病名を登録する必要がある。例えば、「徐脈性心房細動」は「徐脈」＋「心房細動」となり、「糖尿病性神経障害・腎症・網膜症」は「糖尿病性神経障害」＋「糖尿病性腎症」＋「糖尿病性網膜症」となる。それぞれの病名は、一旦登録されると独立して処理を受けるので、疾患間の因果関係や複合病態を表示するためには何らかの機能追加が必要と考えている。

6. 結語

現在、病名システムはほぼ順調に稼働しているが、今後、以下の問題点を解決していく必要がある。

- 1) 病名の種別について：現在、システム上、病名を、主病名・病名・保険病名と区別できるが、そのシステム上の取り扱いは、現在、決められていない。検査目的などで一時的に付けた病名を「保険病名」とし、入院などの目的をより明確にするために「主病名」という区分を使うことなど考えられるが、今後の検討が必要である。
- 2) 今回のシステムの稼働に当たり、既に医事課にて登録されている病名はできる限り、病名マスタ内の同一またはそれに近い病名に置き換えて登録している。しかし、対応ができなかった病名については、単純な文字列として移行し、それを区別するための印を付けている。このような病名については、早急に、マスタにある病名への変更を依頼しているが、使用開始後6ヶ月経過してもまだ変更されていない病名が見受けられる。このような病名は、将来、統計処理の対象外になるので、何らかの対処を必要としている。

病名マスタ、病名システムにはまだ問題点があるにしても、ICD10 コードに準拠した、比較的標準化された病名マスタを使用開始したことで、今後、病院内、病院間での病名に基づくデータの比較が可能になると期待される。

表 1. 国立大阪病院における病名マスター-MEDIS-DC 標準病名マスターとの相違

1. MEDIS 病名を詳細分類した例

1) 乳癌

国立大阪病院病名	ONHコード	MEDIS・ICD10コード	MEDIS 病名	ICD10
乳癌	C509-00800	C509-008	乳癌	C509
乳癌(colloid or mucinous)	C509-00801			
乳癌(medullary)	C509-00802			
乳癌(others)	C509-00803			
乳癌(papillary)	C509-00804			
乳癌(scirrhou)	C509-00805			
乳癌(tubular)	C509-00806			

2) 脳梗塞症

国立大阪病院病名	ONHコード	MEDIS・ICD10コード	MEDIS 病名	ICD10
脳血栓症	I633-.001	I633-.001	脳血栓症	I633
脳梗塞症(アテローム血栓性)	I633-.99901			
脳塞栓症	I634-.001	I634-.001	脳塞栓症	I634
脳梗塞症(心原性塞栓)	I634-.99901			
穿通枝梗塞	I635-.002	I635-.002	穿通枝梗塞	I635
皮質枝梗塞	I635-.004	I635-.004	皮質枝梗塞	I635
ワレンベルグ症候群	I635-.005	I635-.005	ワレンベルグ症候群	I635
脳梗塞症(ラクナ)	I635-.99901			

2. MEDIS 病名に該当する病名がなく、国立大阪病院で付加した例

1) エナメル上皮腫

国立大阪病院病名	ONHコード	MEDIS・ICD10コード	MEDIS 病名	ICD10
エナメル上皮線維歯牙肉腫	C411-99901	C411-.001	悪性エナメル上皮腫	C411
エナメル上皮線維象牙質肉腫	C411-99902			
エナメル上皮線維肉腫	C411-99903			
その他の歯原性上皮悪性腫瘍	C411-99904			

2) 高脂血症

国立大阪病院病名	ONHコード	MEDIS・ICD10コード	MEDIS 病名	ICD10
高脂血症	E785-.002	E785-.002	高脂血症	E785
重症高脂血症	E785-.00201			